

原稿正本

コロサイ書

第一章

一

二

三

四

五

六

七

八

九

十

神の旨によりてキリスト、イエスの使徒となれるパウ

ロ及び兄弟テモテ、書をコロサイに居る聖徒、キリストに

ありて忠實なる兄弟に贈る。願くは我らの父なる神より賜

ふ恩恵と平安と汝らにあらんことを。

我らは常に汝らの為に祈りて我らの主イエス、キリスト

の父なる神に感謝す。これキリスト、イエスを信ずる汝ら

の信仰と凡ての聖徒に對する汝らの愛とにつきて聞きた

ればなり。斯く聖徒を愛するは、汝らの爲に天に蓄へある

ものを望むに因る。この望の事は、汝らに及べり福音の眞の

六 言によりて汝らが曾て聞きし所なり。この福音は全世

界にも及び、果を結びて増々大になれり。汝らが神の恩恵を

き、て真に之を知りし日より、汝らの中に然りしが如し。

七 汝らが我らと共に僕たる愛するエパfrasより、聖書 學び

たるは、この福音なり。彼は汝らの為にキリストの忠實なる

八 役者にして、汝らが御霊によりて懐ける愛を我らに告げ

九 たり。此の故に我らこの事を聞きし日より、汝等のために

十 断えず祈り、かつ求むるは、汝ら靈のもろの智慧と穎悟

とをもて神の旨を具に知り、凡てのこと主を悦ばせんが

為に、その御意に従ひて歩み、凡ての善き業によりて果を結

別行、上、
二、三、四、五、六、
皆同

*異字「我」あり

聖書改譯原稿用紙

大異字「汝ら」とあり

或は「彼の甲」と大異字「オ」にあり

大異字「彼の甲」とあり

土 びいよいよ神かみを知り、また神かみの榮光さかひの勢威せいゐに循したがひて賜たまふ

三 耐たへ、而しかして我われらを光ひかりにある聖徒せいとの嗣業しごふに與あかるに足たる者もの

三 一まし給たまひし父ちちに感謝かんしやせんことあり。父ちちは我われらを暗黒くらきの權けん

三 威おより救すくひ出いだして、其その愛あいしみ給たまふ御子みこの國くにに遷うつし給たまへ

三 五 我われらは御子みこに在ありて贖罪あがまひすふはち罪つみの救ゆるしを得うるなり。

三 六 彼は見得みうべからざる神かみの像かたちにして萬よろの造つくられし物ものの先まき

三 七 是この地ちに在あるもの、見みゆるもの、見みえぬもの、或あるは位くらゐありひ

三 八 是この支配しはいあるひは政治まつりごとあるひは權威けんゐ、みな彼かれによりて造つくられ、

三 九 彼かれのためために造つくらればなり。彼かれは萬よろの物ものより先まきにあり、萬よろの

三 十 物ものは彼かれによりて存たもつことを得うるなり。而しかして彼かれはその身み

三 十一 體からだある教會けくわいの首かぶなり、彼かれは始はじめにして死人しにんの中うちより最先いささに生う

三 十二 れ給たまひし者ものなり。これ凡すべての事ことに就つきて長ながとぶらん為ためなり。

三 十三 神かみは凡すべての満み足ちたれる徳とくを彼かれに宿やどして、その十じゆ字じ架かの血ち

三 十四 によりて平和へいわをなし、或あるは地ちにあるもの、或あるは天てんにあるもの、

三 十五 萬よろの物ものをして己おのれと和やはらがしむるを善よしと給たまひたればなり。

三 十六 汝等おんちからとは惡あしき業わざを行おこひて神かみに遠とほかり心こころにて其その執と

聖書改譯原稿用紙

別行

三

くして己の前に立しめんと為給ふなり。汝等もし信仰に
 止り之に基きて堅く立ち福音の望より移らずば斯く為ら
 ることを得べし。此の福音は汝らの聞きし所また天の下
 あり凡ての造られし物に宣傳へられたるものにして我ハ
 ウロはその役人となれり。

四

我今なんぢらの為に受くる苦難を喜び又キリストの體
 なる教會のため我が身をもてキリストの患難の缺けた
 るを補ふ。われ神より汝等のために與られたる職に備ひ
 て教會の役人となれり。神の言即ち歴世歴世かくれて今
 神の聖徒に顯れたる奧義を宣傳へんとてふり。神は聖徒

五

聖書改譯原稿用紙

六

をして異邦人の中なるこの奧義の榮光の富の義許なるか
 を知らしめんと欲し給へり此の奧義は汝らの中に在すキ
 リストにして榮光の望なり。我らは此のキリストを傳へ
 智慧を盡して凡ての人を訓戒し凡ての人を教ふこれ凡て
 の人をしてキリストに在り全くふりて神の前に立つこと
 を得しめんためなり。われ之がために我が表に能力をも
 て働き給ふもの活動に従ひ力を盡して勞するなり。

元

一 われ汝ら及びラオデキアに居る人々、其の他凡て我が
 肉體の顔をまだ見ぬ人のために如何に苦心するかを汝ら
 の知らんことを欲す。斯く苦心するは彼らが心慰められ、
 愛をもて相列り、全き穎悟の凡ての富を得て神の奧義なる
 キリストを知らん為なり。キリストは智慧と知識との凡
 ての寶藏れあり。我これを言ふは、巧なる言をもて人の汝
 らを欺くこと勿らん為なり。われ肉體にては汝らと離れ
 居れど、靈にては汝らと偕に居りて喜び、また汝らの秩序あ
 るとキリストに對する信仰の堅きとを見らるなり。

聖書改譯原稿用紙

六 汝らキリスト、イエスを主として受けたるにより、其の如
 く彼にありて歩め。又かれに根がして、その上に建てられ
 かつ教へられし如く信仰を堅くし、溢るばかり感謝せよ。
 別行 汝ら心すべし、恐らくはキリストに従はずして人の言傳
 と世の小學とに従ひ人を惑はす、虚しき哲學をもて汝らを
 奪去る者あらん。それ神の満足れる徳は、悉く形體足れる
 てキリストに宿れり。汝らは彼に在りて満足れるなり。彼
 は凡ての政治と權威との首なり。汝らまた彼に在りて手
 をもて為ざる割禮を受けたり、即ち肉の體を脱ぎ去るもの
 にして、キリストの割禮なり。汝らバプテスマを受けし時

公然に

480

三

五

五

五

五

六

九

三

三

三

彼と借に葬られ、又かれを死人の中より甦へらせ給ひし神

の活動を信するによりて、彼と共に甦へらせられたり。汝

ら前には諸般の咎と肉の割禮なきとに、**由**りて死にたる者

なりしが、神は汝らを彼と共に生かし、**我**らの凡ての料を赦

し、かつ我らを責むる規の證書、**即ち**われらに逆ふ證書を

塗抹し、之を中間より取り去りて十字架につけ、政治と權

威とを統ぶて之を公然に示し、十字架によりて凱旋し給へり。

あるひは安息日の事につきて、誰にも審かるな。此等はみ

な來らんとする者の影にして、其の本體はキリストに属け

聖書改譯原稿用紙

り。殊更に謙遜をよそほひ、御使を拜する者に汝らの褒美

を奪はるな、斯る者は見し所のものに基づき、肉の念に耽ひ

て徒らに誇り、首に属くことを為がるなり。全體はこの首

によりて節々維々に助けられて相聯り、神の育にて生長す

るなり。

汝等もしキリストと共に死にて此の世の小學を離れし

ならば、何ぞなほ世に生ける者のごとく人の誠命と教とに

従ひて、**捫**るな、味ふな、觸るなと云ふ法の下に在るか。此

等はみだ用ふれば盡くる物なり。これらの誠命は自ら定

めたる禮拜と謙遜と身を惜まぬ事とによりて智慧ある如

く見^みゆれど、實^{じつ}は肉慾^{にくよく}の放^{はな}縦^{じよう}を防^{おそ}ぐ力^{ちから}あるし。

聖書改譯原稿用紙

コロサイ書

一 汝等もしキリストと共に魅へらせられしならば、上に

あるものを求めよ。キリスト彼處に在りて神の右に坐し給

ふなり。汝ら上にあるものを念ひ、地に在るものを念ふな。

汝らは死にたる者にして、其の生命はキリストと偕に神

の中に隠れ在ればなり。我らの生命なるキリストの現れ

給ふとき、汝らも之と偕に栄光の中に現れん。

されば地にある肢體、即ち淫行、汚穢、情慾、惡慾、また、**慣貪**を

殺せ、**慣貪**は偶像崇拜なり。神の怒はこれらの事によりて

不順、**従**の子らに來るなり。されど、今は凡て此等のこと**及**

び怒、憤恚、患意を棄て、**謙**と**恥**づべき言を汝らの口より棄

てよ。互に虚言をいふな。汝らは既に舊き人とその行為と

を脱ぎて、新しき人を着たればなり。新しき人は、之を造り

給ひしもの、像に循ひ、いよ**いは**新にありて、**智識**に至るな

り。斯てザリシヤ人、ユダヤ人、割禮と無割禮、あるひは夷狄

スクテア人、奴隸、自主の別ある事なし。それキリストは萬**び**の物

ふり、萬のものの中にあり。この故に汝らは神の選民にして

聖**か**の愛せらるゝ者なれば、慈悲の心、仁慈、謙遜、柔和、寛容を

着よ。また互に忍びあひ、若し人に責むべき事あらば、互に

恕せ、主の汝らを恕し給へる如く、汝らも然**か**すべし。凡て

面

別行ニ字ス

異字、不従順の子ら六
にの句をし

誤

聖書改譯原稿用紙

五 此等のもの、上に愛を加へよ、愛は徳を全うする帯なり。
 キリストの平和をして汝らの心を宰ごらしめよ、汝らの召
 されて一體となりたるは、これが為なり、汝ら感謝の心を懐
 け。キリストの言をして豊に汝らの表に住ましめ、凡ての
 智慧によりて、詩と讚美と靈の歌とをもて、互に教へ、互に訓
 戒し、恩恵に感して心の中に神を讚美せよ。また為す所の
 凡ての事あるは言あるは行為みな主イエスの名に頼
 りて為し、彼によりて父なる神に感謝せよ。
 妻たる者よ、その夫に服へ、これ主にある者のなすべき事
 なり。夫たる者よ、その妻を愛せよ、苦をもて之を待ふな。

三六

聖書改譯原稿用紙

子たる者よ、凡ての事みな両親に従へ、これ主の喜び給ふ所
 なり。父たる者よ、汝らの子どもを怒らすな、或は落膽する
 ことあらん。僕たる者よ、凡ての事みな肉につける主人に
 従へ、人を喜ばする者の如く、ただ眼の前の事のみを務めず、
 神を畏れ、真心をもて従へ。汝ら何事をなすにも人に事ふ
 る如くせず、主に事ふる如く心より行へ。汝らは主より報
 こして嗣業を受くることを知ればなり。汝らは主キリスト
 に事ふる者あり。不義を行ふ者はその不義の報を受けん、
 主は偏り視給ふことをなし。